

朝来医療センター
整形外科 部長
木下 恵祐
きのした・けいすけ

その痛み、がまんせずに受診を

朝来医療センターで リウマチ外来を開設しました

免疫の異常によって関節が炎症を起こし、
進行すると関節の破壊や変形が起こる関節リウマチ。
朝来医療センターは2025年4月にリウマチ外来を開設。
服薬や注射、点滴などの内科的治療を中心に診療を行っています。

リウマチってどんな病気？

リウマチは膠原病の一種で、関節が炎症を起こし、軟骨や骨が破壊される病気です。進行すると関節の破壊や変形から、関節機能が損なわれます。

典型的な症状として、朝、体が痛くて起き上がれない、左右の手足がこわばったり、関節が痛くなったり腫れ上がる、などが挙げられます。40代から60代の女性の発症が多いですが、子どもや若年者の発症や、70代、80代になってから発症するケースもあります。

4、50年ぐらい前までは治療法が確立されておらず、痛み止めで対処していました。しかし、関節リウマチの免疫異常を改善する抗リウマチ薬が開発され、メトトレキサートという薬が標準薬として使われるようになり、症状が劇的に改善するようになりました。2000年代に入り、更に生物学的製剤が導入されてからは、投薬が必要なくなるケースも出てきています。手術をするケースも減りました。

毎週月曜午前に診療

朝来医療センターのリウマチ外来は、毎週月曜日の午前中に開設され、長年リウマチの治療に携わり、日本リウマチ学会専門医でもある河野誠司病院長が診療を行っています。外来では、まずは服薬や注射、点滴などの内科的な治療で痛みや腫れを和らげ、手術が必要になった場合は整形外科につなぎます。

リウマチは膠原病の一種ですが、リウマチに合併しやすい膠原病もあります。発熱が続いている場合は、膠原病ではなく、感染症や腫瘍が原因のこともあります。専門医は、これらの病気の見極めを得意としています。

現代の治療で症状の改善も

リウマチの詳しい原因はよく分かっていませんが、喫煙が発症リスクを高めると言われています。また、膠原病全体の予防として、ストレスをため過ぎないことが大切です。

関節リウマチ
関節が炎症を起こし、
軟骨や骨が破壊される。

リウマチは早期に対応すれば、症状をコントロールし、進行を抑えることもできるようになりました。河野病院長は「長い間痛みをがまんしてきた方でも、現代の治療で症状が良くなる可能性があります。開業医の先生を含め、困っていることがあればご相談ください」と診療を呼びかけています。



リウマチ外来を担当する河野病院長

朝来医療センター

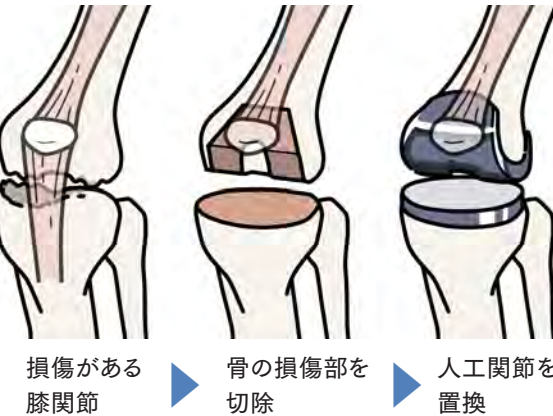
人工関節手術に取り組みます

人工関節手術とは、関節リウマチや変形性関節症といった病気や、外傷などによって変形した関節の表面を取り除いて人工の関節に置き換え、関節の痛みを軽減する手術です。新たに整形外科に着任した木下恵祐部長は、この手術に力を入れようとしています。

日本整形外科学会の専門医・指導医である木下部長は、2005年から神戸大学医学部附属病院整形外科の膝グループで人工膝関節の治療に携わっていました。その後赴任した済生会兵庫県病院では、2014年に人工関節センターを開設し、センター長として人工膝関節や人工股関節の経験を積んできました。

人工関節の進歩は著しく、現代はコンピューター支援手術（ナビゲーション、ロボット）が中心となっています。ナビゲーション手術では、コンピューターに登録した骨格の三次元情報を参考にすること

手術の一例



で、より正確に人工関節を設置することができるようになりました。木下部長はこれまでの経験を生かし、朝来医療センターでは年間約100例の人工関節手術の実施を目指しています。

膝や股関節痛にお悩みの方は ぜひ一度ご相談ください

木下部長は「超高齢化社会により変性疾患や骨粗鬆症が増加し、人工関節や骨粗鬆症に関連した骨折が増えています。夜間や休日の高齢者の転倒による骨折をできるだけ引き受け、全身状態が落ち着いていれば早期に手術を行いたいです」と意欲を燃やしています。



整形外科 部長 木下恵祐（きのした・けいすけ）

TOPICS 各病院のお知らせ情報

豊岡病院

放射線治療装置（リニアック）の更新に伴う、 新規患者受け入れ停止のお知らせ

放射線治療装置の機器更新作業に伴い、放射線治療を新たに開始される患者さんの受け入れを、以下の期間停止いたします。

- 受け入れ停止期間
2026年1月～2026年9月（予定）
- 停止期間中の対応
放射線治療が必要な患者さんには、当院と連携する医療機関をご紹介します。

なお、治療の再開は2026年10月を予定しております。
ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

出石医療センター

ソフトボール大会奮闘記

6月21日、病院組合互助会のソフトボール大会に参加しました。ソフトボール未経験者＋アラフィフ多数という、見るからに不安なない布陣でしたが、全員で声を掛け合い、最後まで元気にプレーしました。結果はまさかの準決勝進出、3位！

普段はそれぞれの持ち場で働くスタッフが、一つのボールを追いかける—そんな非日常の時間が、職場の絆をより深めてくれました。来年はさらに上を目指しますよ！

……週明けの勤務日、みんな筋肉痛と戦っていたのは内緒です w



豊岡病院で集団災害医療訓練 いつ起こるか分からない災害に備えて

北但大震災から100年となる2025年5月23日午後、外来診療を休診にして、豊岡病院で大規模な「集団災害医療訓練」を実施しました。
参加可能な当院の職員約300人に加え、豊岡市、美方広域、南但の3消防本部の職員、看護学生の約70人、計約370人が参加し、災害時の対応を確認しました。

毎年5月23日を「災害の日」に

北但大震災は1925（大正14）年5月23日に発生。マグニチュード6.8の地震により、豊岡や城崎を中心とした円山川流域のまちが甚大な被害を受けました。

南海トラフ地震の発生も危惧される中、当院は2025年から、毎年5月23日を「災害の日」と定め、直近の金曜日の午後に集団災害医療訓練を実施することにしました。今回、患者さんや地域の皆さまのご理解・ご協力を得て当日午後の診療を原則休診とし、初めて平日に大規模な訓練を行いました。

震度6強の地震を想定し訓練

訓練には、医師や看護師をはじめとした多職種の職員が参加。但馬北部で震度6強の地震が発生し、当院も電気や水道などが使えなくなる中、約100人の傷病者が来院したという想定で実施しました。

当院では、三輪聡一病院長を本部長とする災害対策本部を設置。職員らは、災害時に取るべき行動をまとめたカードに基づき、次々と来院する傷病者のトリアージや重症・中等症・軽症と症状ごとに分けたエリアへの搬送、治療、本部業務、行政や報道など外部機関との調整などに取り組みました。

課題を生かし、災害への備えを強化

正面玄関に詰めかけた模擬傷病者のトリアージや搬送、各部門間での情報伝達などで混乱する場面もありましたが、職員らは落ち着いてそれぞれの役割を果たしました。

終了後は、現場対応と本部業務、各部門間の調整に分かれて反省会を開き、訓練での行

訓練の統括責任者に聞きました

自治体など外部機関との連携も強化、災害時の避難場所や行動の確認を

当院は災害拠点病院に指定されており、DMAT（災害派遣医療チーム）を有しています。2024年1月に発生した能登半島地震では5回、石川県に派遣しました。今回の集団災害医療訓練には、DMATが被災地で得た経験も生かしています。

訓練を通して、職員の災害に対する意識は非常に高まっています。情報が

特定の部署に集中して伝達がうまくいかなかった、現場の状況が分かりにくかった、傷病者の搬送手段が不足した、などの課題が見つかりましたので、今後の災害対策や訓練に生かします。兵庫県内の災害拠点病院同士の訓練も行っていますが、県や豊岡市、朝来市など自治体との連携も強化していきたいです。

災害はいつどこで起こるか分かりません。私は2016年の熊本地震の際、現地や佐賀大学医学部附属病院で被災者の治療に当たりました。大規模な災害では、救急車が足りず、多くの傷病者が自家用車などで来院されることが予想されます。地域の皆さまにも、改めて災害が発生した時の避難場所や行動について考えていただければ幸いです。



トリアージエリア



災害対策本部



患者治療エリア

日高クリニック

訪問サービスにおける マイナンバーカード対応開始

2025年6月より訪問看護ステーションひだかでは、マイナンバーカードを用いたオンライン資格確認の運用を開始しました。これにより、利用者様の保険資格の確認がスムーズに行えるようになります。より確実な保険情報に基づくサービス提供が可能となります。

